

Snow 春の雪

小雪舞う、枯れ木の残る冬の景色の消えやらぬ鎌倉の低い山の斜面に赤や白の梅の花がちらほら咲き始めているのが見える。これは冬景色なのかそれとも春の風景なのかと、つまらないことを考えた。もうそこに見える苔むした鎌倉石の岩を削って作った洞窟をくぐると、彼女の家がある。

「玄関はいつも開けてあるから、入ってきてね」と、昨夜の電話で彼女はそう言った。ただ、その言葉だけでここへ歩いてきた。

僕が知っていた頃の彼女の周囲は、いつも華やかで、僕にはまぶしいやら、うっとおしいやらでいつもいら立っていた。この間久しぶりに見た彼女は、以前とちっとも変わらずとても綺麗だった。

少し屈むように洞窟をくぐる。目の前に開けた谷戸が現れる。そこには三軒の古い屋敷があり、その一つが彼女の家だ。ここには人の気配がない。山に囲まれた狭い空からはらはらと雪が落ちてくる。世間と切り離されたような静かなこの場所は、今日は雪のせいで特に静かだ。山の景色も押し黙っている。僕は、空を見上げ、顔にかかる冷たい雪を眺めていた。その静寂の中にどれほどの時間立っていたのだろう。玄関の扉を開けると、長い廊下がありその奥が彼女の部屋だ。その扉は、今僕の目の前に見えているけれど、それは、どんな未来より、どんな過去より遠く感じられた。僕らの間には語りつくせないほどの物語がある。けれど、この長い長い年月のあいだに僕は、たくさんのもの、たくさんのなんだかわからないものを失くしてきた。僕はふと、昔、彼女が言っていたことを思い出していた。

「さよならという名の猫の話知ってる？その猫はいつもどこかにかくれていて、恋人達が二人つきりになると、かならずあらわれるって…」僕は扉を背にして洞窟をくぐり、歩き始めた。降り止まない雪が、梅の花に積もり始めていた。

扉をあけて入りゆきたるわがあの

廊下にさむく風のこりおり

寺山修司



鎌倉の猫事情 第六十四話

COLUMN

今年は、記録的な暖冬ですが、それでもちらほら雪が見られる日もありました。この温かさで、海や森の動物達にも影響が出始めてるとか。心配です。

さて、生まれてはじめて受けた手術の経過が芳しくなく、またもや獣医さんの診察台に舞い戻ってしまったグーニー君、注射が効きはじめたのかぐったりとしています。「また、同じことが起りますよ」と、先生に言われてこれからどうなるのだろうか、心に不安を抱えながら、グーニーを家に連れ帰りました。もうろうとするグーニーは、ゲージからのろのろと這い出して、自分の餌場へと向かったものの、じっと眺めているばかりで水さえも口にはしません。激しく痛む発作とそれを抑えた注射ですっかり体力を失っているようでした。先生は、病状の詳しいことは説明しませんでした、原因は猫のアレルギーからきているとの事です。見るも哀れな落ち込んだ様子のグーニーは、座らされたソファの上で丸くなっています。時折上目遣いに周りを見上げるのですが、動く気配もありません。「明日になったら食事しますよ」と、先生が言われたように、1日経ってようやく水を飲み、ご飯も少し食べました。奥の歯を全部抜かれた上に、その傷が2週間経ってもふさがらないということですから、ドライフードはとも食べられないでしょう。グーニーはもともとおかかご飯や缶詰のご飯が好きで、そんなものなら少しは食べられるようです。ご飯を食べるのを見て、少しは安心しましたが、結局また、あの恐ろしい発作を起こすのに2週間とはかからなかったのです。何がきっかけになるのでしょうか。またも突然ギアアアアと、悲鳴をあげて転がりまわって苦しみます。いったいグーニーの体の中で何が起きてしまっているのでしょうか。私はただ、そのたびにおろおろとグーニーを抱えて獣医さんのところへ駆けむよりほかにありませんでした。その様子は毎回同じで、先生は抵抗するグーニーをあつさり抑え込んで口の中を覗きこんでは、首を振り、注射を打ってくださいます。先生はグーニーの性分をすっかり呑み込んでるようで、牙をむいて怒るグーニーの一瞬の隙をぬって口の中を見たり、注射を打ったりお尻の穴に体温計を突っ込んで熱を測るという具合です。診察台での先生とグーニーとのやりとりはなんとも絶妙な呼吸があり、あつという間に先生の大きな手の中で恨めしげに喰りながら、おとなしくなるグーニーの様子に感心していました。ある時、その日はグーニーの方にも考えがあったのでしょうか。診察台に下ろされるやいなや、先生の手に乗るより早くその手は食わぬと、診察台からひらりと飛び降り、大切なパソコンへ、書類棚からまた次のパソコンへと、痛いのも忘れて駆け回りました。あわてたのは私と助手の女性の方ですが、先生は平然としたもので、診察室中暴れ回るグーニーを横目に「しばらくやりたい様にやらせておきましょう」と、放っておいたのです。その数分後にはグーニーがおとなしく診察台の上に座っていたのは言うまでもありません。

そして、そんな何度目かの治療の日、先生は、「この様子では、注射はもっと頻繁に打たなくてはならなくなります。そしていずれもっと強いものに変えなくてはならなくなります。できれば注射の間隔が、今の間は2週間くらいに保てればいいのですけどね」とおっしゃいました。_____私にはそれが、恐ろしい警告に聞こえました。

注射の間隔が短くなったら、タイヘン……

という言葉が、頭の中でこだましていました。_____to be continued





HISTORY

KAMAKURA

場所の記憶 No.11

ミルクホール その3 肖像画の老人

ミルクホールの2階の部屋に飾られていた一人の老人の肖像画は、ミルクホール完成のその年に亡くなったという、当時この家の主人だった磯見満氏の父、磯見喜代松という人の晩年の姿を描いたものでした。現在の店主、磯見藩の祖父にあたります。大正・昭和の時代に鎌倉の駅前に大きな旅館を構え、たくさんの使用人と、幾人もの芸者を置き、車が珍しかった時代に、タクシー会社も持っていたという話が伝えられている豪腕の商人のありし日の姿だったのです。が、その肖像画から受ける印象はそんな物語とはかけ離れた、さして高価とも思われない部屋着を着、首元には温かそうな襟巻を巻きつけ、温和な顔立ちのいかにも明治の老人といった姿でした。そしてその顔は今にも大声で笑い出しそうな楽しそうな顔なのです。晩年絵を描くの趣味として暮らしていた先代がもうとうに亡くなった父の面影を追い、手探りで描いたというその肖像画からは穏やかな日常の風景が浮かんできます。ところが、私が当時を知る様々な人達から伝え聞く話や、また事実あった話と、その風景はあまりにも違っていました。その事がこの家に、鎌倉に住んで20年が経った今に至るまでずっと心に引っ掛かり続けてきた事です。肖像画の老人磯見喜代松とはどんな人物だったのでしょうか。また、どのような人生を送り、そして晩年のその日、何を思いあのように笑っていたのでしょうか。

磯見喜代松、戸籍の記載によれば、出生は慶應参年参月八日、その年は明治元年の前年、まさに明治維新の真っ只中の年に生まれています。死亡は昭和拾八年四月式拾八日、太平洋戦争の只中、その月に山本連合艦隊司令長官が戦死、敗戦の色濃くなってきた時でした。76年の生涯でした。また、戸籍の記載によれば磯見喜代松の母、磯見ワカは、養母であり、磯見喜代松は、妻コマと共に、磯見ワカの夫婦養子となっていたのです。

それは、明治参拾年拾月壹日のことでした。 次号へ続く



Milk Hall Times

ミルクホールタイムス定期購読者募集!

ミルクホールタイムスご愛読頂くお客様へ
 ミルクホールタイムスは発刊以来ほぼ月刊の形をとってきましたが、編集者の都合により、お断りもなく休刊する月もあり、苦情を頂くこともしばしばあり、なかなか改善できず、ご迷惑をお掛け致しておりました。その為、本年より、毎月25日の定期刊行することに致しました。つきましては、定期購読して下さるお客様を募集させていただきます。
 定期購読の申し込みについては、当社経費の為年間1500円を、お納め頂くようお願いしたいと思います。定期購読お申し込みの方は、毎月25日発行日に発送致します。準備の都合により定期購読は、4月号、3月25日の発行よりとなります。また今現在ご郵送しておりますお客様へは、3月号までこのままご郵送続けさせていただきます。
 メール、FAX、お葉書などでお申し込みをお待ちしております。お支払い方法は、郵便振替にてお願いいたします。



ミルクホールタイムス編集部

〒248-0006 鎌倉市小町2-3-8

PHONE 0467-22-1179

FAX 0467-24-9537

e-mail/ info@milkhall.co.jp

ミルクホールタイムス 総集編

「鎌倉ミルクホールタイムス」 1部1800円

No.001 ~ No.100

ミルクホールタイムス創刊号から100号まで全てを編集した、ミルクホールタイムス総集編を昨年、30周年を記念して発行いたしました。好評連載中の「鎌倉の猫事情」が第一話から前編最後まで掲載されており、また、ガラタ通信や、COLUM、ミルクホール開店当時の写真や逸話など、ミルクホール30年のあれこれが楽しめる本になっています。タイムス購読とあわせてご利用頂ければ幸いです。

LIVE

2/17 Sat. pm 7:30

by HALF MOON

毎月第三土曜日の夜は
 ハーフムーンのライブで、
 MILK HALLのBAR TIMEを
 お楽しみください

HALF MOONの音楽は

愛と平和を歌います。

琢磨 仁 (Jin Takuma)

琢磨 啓子 (Keiko Takuma)

<http://www.e-half-moon.com/>

ミルクホールでは、
 ライブチャージは頂いて
 おりません。普段どおり
 のメニューでお楽しみ
 下さい。



Information

新発売 グーニーモーニングセット発売!

鎌倉の猫事情でお馴染みのグーニー君の写真入です。
 グーニーモーニングセット

ミルクマグ ¥1000

パン皿 ¥850





ANTIQUES

懐かしい日本の骨董、
アンティークなもの
使いやすい古道具から
掘り出し物の骨董まで
探してみてください

伊万里・古陶磁
和洋家具
古民芸
アンティーク

♠ 和洋家具

明治・大正・昭和初期の日本の和洋家具。
ミルクホールにて修理済みです。

- ★★大正時代水屋箆笥二段 ¥98,000
- ★★明治時代帳場箆笥二段 ¥128,000
- ★昭和初期鏡台 ¥9800より
- ★箱各種新入荷 ¥4500より
- ★蔵戸 ¥28,000
- ★★昭和初期飾り本箱
- ★★大正ガラスケース ¥42,000より
- ★明治時代文机 ¥10,000より

◆ アンティーク

- ★レプリカシェード ¥5800より
- ★明治・大正のレースガラス・ガラス鉢
- ★★アメリカ製カーミット
電話機(使用可) ¥18000
- ★★昭和初期レトロポスター・映画写真など
- ★お菓子ケース・ガラス瓶など



♣ 古陶磁

- ★★砥部焼再入荷!
鯨の染付、昭和20年代四国
の砥部焼が好評につき 入荷。
なます皿、猪口、小皿など
- ★★古伊万里碗入荷
- ★★大正色絵各種
- ★★幕末染付大皿
- ★伊万里7寸皿各種
そば猪口各種
- ★明治九谷絵皿・猪口
- ★大正時代火鉢
- ★初期伊万里陶片
- ★縄文土器欠片

★ 着物・アンティーク古着

★★木綿着物 新入荷

素朴な味わいのある藍染めの木綿の着物多数、入荷しました。
ある時は小粋に洒落て、ある時は仕事着感覚で。
木綿の単衣の着物は、ざぶざぶ洗って使えるのが魅力です。
試してみてください。

大正・昭和初期に大流行した斬新なデザインの銘仙や
お召しの着物も入荷しています。

人気の大島紬
¥9800より

他、小紋やちり緋など

久留米緋
銘仙着物

お召し

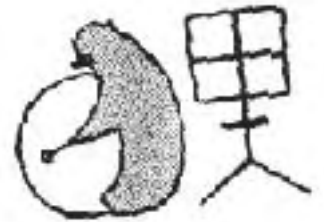
¥7800より

¥6500より

¥6800より

ミルクホールオリジナル 和の小もの

大正・昭和初期時代の
絹の着物の布地を素材に
使った和の小もの色々です



..... 和の小もの 1

✂ 半襟・帯揚げ

着物はコーディネートで楽しみたい
もの。昔の着物をほどこいて、鹿の子絞
りや、ちり緋、銘仙など、
昔の生地で半襟・帯揚げに仕立て直し
しました。安価で素材も豊富です。

半襟 ¥800より

帯揚げ ¥800より

つくり帯 半襟・帯揚げ くるみボタン かんざし

✂ かんざし

★ミルクホール製花のかんざし
大正・昭和初期の着物の生地で
可愛い花のかんざしを作りました。
花のかんざし ¥2500より

★ミルクホール製木のかんざし

木の棒1本だけで、髪をくるくる
まとめてアップにできます。
髪長さや質に合わせて、木の
棒の長さをお選び下さい。
木のかんざし ¥1800より

★ミルクホール製くるみボタン

昔の着物をほどこいて、小さな
くるみボタンを作りました。
くるみボタンの髪飾りもあります。
くるみボタン ¥100より
くるみボタンのコーム
¥1200より

✂ 帯・つくり帯

着物は、つついとおくうになっ
てしまいます。せめて帯は簡単
に結びたいものです。つくり帯を持
っていると着物が身近になってきます。
初心者の方はもちろん、着物に慣
れた方にも、お気に入りのつくり帯
をお持ちになることをお勧めします。
またお買い上げの帯もつくり帯に
お仕立て致します。

半幅帯蝶結び ¥2000より
名古屋帯おたいこ ¥4800より

✂ 古布・古裂

- ★大正銘仙端布
- ★明治藍染布団皮
- ★端布色々 新入荷

絞りや、紬、銘仙、モスリンなど。
昔の着物を解いて作っています。
長尺もの 120cm~180cm
¥900~

端布 アラカルト ¥300より
お使いの用途により、色々な大きさの
ものを用意しています。

